

## 私事雑記帳《1》

# 海外学会旅事情—補遺その2 ERに運ばれて— 第73回AAD学会にて（サンフランシスコ 2015/03/20～25）

栗原誠一 湘南皮膚科（平塚市）

“Have a nice trouble !?” 空港でレンタカーを借りたときに、前に並んでいたご婦人が旅の始まりを祝ってくれた言葉を聞き間違いしたのがいけなかったようです。niceな trouble って何やねん？

オランダのスキポール空港で着いた途端にパスポートや現金などをかっぱらわれた体験記、気の合った仲間達の有り難さとスマホの大切さを神皮23号に書きました。こわい警察官と折衝してくれ、スーツケースを使えるようにしてくれた後輩の頼もしい姿や、お世話になったMカードが思い出されます。その5ヶ月後に、ほぼ同じメンバーが今度は第73回AAD関連旅行に誘ってくれました。恩返しチャンス到来とばかりに国際運転免許証も手に入れて準備万端、3月20日に羽田を発ったJAL便は現地時間3月19日夕刻、憧れのサンフランシスコに到着。いよいよ5泊6日・楽しい旅の始まりはじまりー!! ところが、またまた仲間の面々をドキドキハラハラさせる大失態をしかしました。2泊目の宿で、頭から血を流して倒れているところを発見され、かの有名なStanfordのERに運びこまれ、引き続いてICUに収容されてしまったのです。医療系TVドラマのようでしょ!?

異国の地で救急病棟に収容され、生命的予後の心配までかけたのに、回復して追いついた私を仲間達はまたまた温かく迎えてくれました。今回の経験も海外旅行でアクシデントに遭った際に役立つと考え、学会報告補遺版として感謝の気持ちを込めて記録に残させていただきます。

日頃が真面目に働き過ぎているせいか、旅に出るとつい飲み過ぎ喋り過ぎて羽目を外すきらいがあるようです。着いた3月19日の夜は文頭に書いた英語耳の悪さを反省しつつ軽く1杯。スッキリ目覚めた3月20日は、イマデモ・ジモティーのI先生に引率されて、くねくね坂道のLombard Streetやアルカトラズ島へのフェリー乗り場などを散策してウキウキ絶好調!!



アルカトラズ島への桟橋にて

そしてAndronico'sスーパーで夜の飲み物などを仕入れたところで私のデジカメ記録が途絶えています。Foster cityのホテルに入って夕食後、買い込んだワインの品評会と沖縄舞踊ガイダンスが私の部屋で催されました。その深夜にアクシデントは起こったのです。気分良く酔っ払って(監視カメラの記録によると)、フラフラしながら宿泊棟とレセプション棟の連絡通路のドアから外に出て、何かを拾おうとして滑って左後頭部からコンクリートの地面に倒れ込み、意識を失ってER行きになりました(暴漢に襲われた説もでて興味深い教訓があるのですが、本稿では割愛します)。ホテルスタッフから緊急連絡を受けたO先生によると、救急車と消防車・ハシゴ車が出動してチョットした騒ぎだった……ですよね～。退院時に返還された、バツサリ切り開かれた血染めのシャツ、一気に切断されたベルトなどを見てぞっとしました。

### 旅のアドバイス

1. 15,500 \$払えないとERには入れない。持つべきものは……

救急車で運ばれる私に付き添うように病院に行ってくれたO先生は、受付でまず15,500 \$ (1,860,000円)先払いしなければ収容しないと言われたそうです。そんな大金をすぐに都合するのは……。で今回は



スタンフォードのER入り口。オシャレな日よけ

Dr.D.のBカードのお世話になりました。海外旅行に際しては、しっかりした保険に入っておくのは当然です。それでも今回のように本人が倒れたときは保険会社に連絡することも出来ないのです、同行の誰かに15,500 \$を立て替えて貰わねばなりません。持つべきは金持ちの友人です、なんちゃって。Dr.D.のお陰で本当に助かりました。払えなかったらどうなるかって？ 開頭手術の練習台にされる可能性も否定できないと、あとで聞きました。

参考までに、あとで保険会社から聞いた話では、ICU入院費用は約4,000,000円（ERとは別料金）請求されたとのこと。1泊2日、滞在12時間でおよそ6,000,000円也。5泊6日3,640円で加入した海外旅行保険の重みを感じるに余りある金額でした。

#### 【補遺の補遺1】：日本人はカモにされるんだってさ

救急車に乗せられるときに私はO先生の名前と関係を英語でしゃべっているし、ERからICUに移される際に自筆でサインしている。M先生に言わせると、「酔っ払いが転んでひどい脳震盪を起こしただけだったんじゃない？」と。確かにこの推測は当たっていて、ERでのCTで very small subarachnoidal hemorrhage が見られたと説明を受けましたが、6時間後にICUで再検査した画像を見せてもらったら病変は何もなく、読影所見には no significant change とありました。???です。朝食も配膳されていたのですよ!! 豊かで優しい日本が、ノイズが入るCTの買い替え費用をStanford に寄付した気分です。

## 2. 緊急連絡先（家族）は同行者にも伝えておく

ERで、もし開頭手術になったら誰が同意書にサインをするか困ったそうです。旅行社のツアーなら緊急連絡先を提出しますが、個人旅行でも同様に、仲

間には24時間連絡のつく家族の携帯電話番号を伝えておきましょう。自宅の電話番号ではダメです。今回は連絡を取るのに手間取り、家族には辛い思いをさせました。もう飲みません、とは言いませんがゴメンナサイ。



スタンフォードのICU。生還してDr.D.に感謝

## 3. セキュリティー BOXの暗証番号も伝えておく

ICUで完全覚醒した私はしびれや麻痺もなく、点滴のおかげで二日酔いもなくスッキリです。しかし、夜中の0時過ぎにER → ICUなので、目覚めて元気でCTに異常が無くともすぐには退院させてくれません。仲間に携帯メールで無事・元気を連絡して、のちほど合流することに決まりました。ホテルをチェックアウトして、次の目的地には私の荷物も持って行ってもらわねばなりません。暗証番号はスマートな覚えやすいものにしましょう。

## 4. やっぱりスマホは〇〇〇の次に大切かも

スキボールの時もポーとしたなかで、運良くスマホをズボンのポケットに入れておいて助かりました。今回もポケットに入れておいたおかげで、ICUの病室で生き返ってすぐに渡してもらえました。おかげで仲間に安否連絡がとれ、保険会社に電話して残りの支払いを任せて退院できました。連絡をとるにも、なにを調べるにも、旅行中は肌身離さず手放してはいけません。

【補遺の補遺2】：目が覚めてから頭の傷をホッチキスで縫われました。局麻も無しにサーヤルヨ、ガチャ・ガチャ、一瞬の痛みでした。そうだよね～、局麻の注射の方が痛いよね～。頭髪を挟み込んでも治りに問題なく、頭皮の創縫合はこれに限ると納得しま

した。髪は徐々に抜けて2ヶ月後に全部抜け、再生してきて5ヶ月後には完治しました。ハゲが治るまでの経過を追った写真がありますので、興味のある方はお知らせ下さい。

### 【補遺の補遺3】：後遺症

生き返ってから、現在でもずっと気になっていることがあります。喋る言葉が声になるまでに一瞬の遅れがあり、時には考えを先読みしたような単語が出てきてしまうのです。滑舌の悪さや記憶力の低下は年のせいとあきらめもつきますが、この他人には分からないdelayはストレスフルです。帰国してすぐに病院の脳外科で診てもらいましたが異常なく、慢性硬膜下血腫もありませんでした。強烈な脳震盪でたくさん断線したのかしら。3年経っても治りません。私がおかしなことを言うなーと思われても気にせずお付き合いください。



試飲なしのナパバレー、爽快だった

ICUで出されたデザート付きの病院食もそこそこ退院し、付き添って看病してくれたDr.D.とタクシーを駆ってモントレイ近くで一行に追いつきました。こっぴどかしい気持ちでいっぱい私を、心配してくれていた仲間達は、嫌な顔一つせずに迎えてくれました。お詫びと嬉しさで涙が出そうになりましたが、事情を嗅ぎ取ってくれているのでしょうか、まずは快気祝いにビールで乾杯でした。うまかったー!! その後はもちろん、同行した内科医の言いつけに従って、ナパバレーでも禁酒をまもりました。やっぱり持つべきものは気心のしれた友です。

次の旅行でどんな経験をするか楽しみです。

乞うご期待!?



金門橋をバックに。仲間に感謝!!

## 私事雑記帳 《2》

### 義母の緊急入院

能登重光 フタバ皮フ科（横浜市泉区）

本年2月某日早朝、我が家の電話が鳴った。相手は妻の父親からで「お母さんと今病院にいる」とのこと。義母が未明に呼吸が苦しくなり、救急車を呼んで近くにある循環器病院に搬送されたそうです。「命にかかわることなので、家族はその心づもりでいてください」と言われたとのことで、慌てた妻は「早く早く」と言いながら家中を走り回り、身支度をし(急

いでいる割には化粧をバッチリしていた)、病院に向かいました。道中は、意識がなく昏睡状態になっているのか? 人工呼吸器、点滴などにつながれてスバゲッティー症候群のような状態になっているのではないかと悪いことばかり考えていました。

病院に着くと義父が開口一番「参っちゃったよー」えっ? まさか遅かったのか? とICUに行くと、

意識のある義母がおりました。確かに酸素マスクをつけ、モニターを見ると血圧も高く、心拍数も通常の倍近くもあり普通ではありませんでしたが、酸素マスクで酸素が入っていたこともあり、酸素飽和度は100%でした。話しかけたらちゃんとした返事も返ってくるし、まずは一安心しました。

検査で『タコつぼ型心筋症』と言われ、肺にかなりの水が溜まっていて呼吸が苦しくなっている状態でした。原因は数日前から不整脈と血圧の薬を飲んでいなかったこととストレスからと言われました。体調が悪くてかかりつけに行けずなくなっていたようで、事情を話せば薬だけの処方してもらえたと思うのですが、まさかその時は救急車で病院に入院することになるとは思っていないし、体調が戻れば受診すればいいやくらいにしか思っていなかったようです。

利尿剤や強心剤などの治療効果があるものの、なかなか肺の水が減らずにいましたが、急性期の状態は脱したので、2週間後、一般病棟の個室に移り、そこで厄介なことがおこりました。院内どこでも携帯電話の通話が認められていて、深夜3時とかに自宅や娘である妻の携帯に電話をしてくるようになり、そのたびに何かあったのかと飛び起き、これが



退院したらドコ行きたい？

しばらく続くのでした。内容は「何で私は病院にいるの?」「お父さんまだ来ないのよ」など、こちらは熟睡中なのに迷惑な電話を頻繁にかけてくるようになってきたので、携帯を充電してくるからということにして夜間とりあげるようにしました。すると、今度はナースステーションで先ほどまで病室にいた義父とまた話がしたいと言って、無理に看護師に自宅に電話をかけさせるようになってきたので、迷惑はかけられないし、強制退院になっても困るので、夜間に電話をしないことを約束させ携帯電話を返しました。

そんな義母も3月上旬に無事退院をして、今は心臓のリハビリに週2回通っています。ただ、まだ困ったことがあります。それは退院時の指導で塩分は1日6グラムまで、水分は1リットルまでと医師から言われたにも拘わらず、水分制限が守れないことです。普段からお茶、コーヒーなどをよく飲んでいたので飲めないことが苦痛のようで、「水分制限しているからそんなに飲んではダメだ」と言うと、「何でそんなに意地悪するの」と義父にあたります（入院中あんなにまだ帰らないでと言っていたのに……）。かわいそうですが、「肺にまた水が溜まって入院しないようにするためだ」と言っても、理解してもらえないようで辛い部分もあります。あと、リハビリの間診で「家事全般はどなたがしているか?」との問いで、「私が全部しています」と答えていたとスタッフから聞いて、義父と妻と私は同時に「えっ? 退院してからは全然やっていません」と即答し大爆笑でした。こういうことがあるので脳外で認知症テストをしてもらったら、正常範囲と言われ、天然なのかどうなのかボーダーレスです。

義父母も80歳を過ぎお互い大変だと思いますが、私達も義母のストレスにならないよう、やさしくサポートして見守っていきたいと思います。

## 私事雑記帳《3》

# 鉄分補給

川口博史 金沢皮膚科（横浜市金沢区）

横浜市南区で生まれ育った自分にとって、鉄道の原点は地元の京急（当時は京浜急行）と東海道本線でした。東海道新幹線が開業する前、母の実家がある名古屋に行くのに、準急に乗って1日がかかりだったのが記憶のかなたに残っています。趣味として始めたのは小学生の時のHOゲージの模型作りでした。ですからスタートは「模型鉄」でしょう。湘南高校入学とともに鉄研に入りました。そこには様々な鉄がいて、模型以外にも撮り鉄、乗り鉄、切符収集、それも硬券専門や、車掌から購入する車内精算切符専門、周遊券の下車印専門、あるいは東海道線の編成マニア（東海道本線普通列車の11両基本編成と4両の増結車両が、どんな組み合わせで上り下りを走ってくるのかを、辻堂の踏切脇で車両ナンバーをメモするすごい動体視力のつわもの）などがありました。自分は鉄研では模型班でしたが、夏休みには部員達と鉄研旅行と称して、周遊券片手に夜行急行に乗って、全国各地の車両に乗ったり撮ったりしていました。大学時代はたまにドライブ&撮り鉄をした程度で、医師になってしばらくは、趣味としての鉄道とは離れた生活をしていました。

30代後半、それまで年賀状のやり取りだけだった高校鉄研の同期達と再会し、当時復活したSLを撮りに行くことになりました。初めは1998年、秩父でキャンプ&撮影でした。これに味を占めて翌年は磐越西線、2000年には大井川鉄道へと、当初は

年に一度くらいでしたが、だんだん頻度が増して、年に数回出かけるようになりました。こうして「撮り鉄」が再開しました。当初はカメラオンリーでしたが、仲間は昔からビデオでも撮っていて、自分も遅まきながら2013年にビデオカメラを購入しました。我が家に時々集まって、川口水産の肴で一杯やりつつ、持ち寄ったビデオの鑑賞会をします。個人的にはここ数年、新幹線開業前の北陸本線や海峡線に足を延ばしていました。またカメラに収めることはできましたが、北陸、能登、日本海、トワイライトエクスプレス、北斗星、カシオペアなどの夜行列車もとうとうなくなってしまいました。

ブルトレに乗る機会は少なかったのですが、列車に乗って車窓の景色を楽しむ「乗り鉄」も好きです。ただ乗っているだけで満足です。最近では長距離列車自体が少ないので、先日、以前からやりたかった究極の乗り鉄をしてきました。時間が限られていたので、一部空路ですが、羽田から新千歳へ飛んで、南千歳→（おおぞら）→釧路→網走泊。翌日網走→（オホーツク）→札幌→（スーパー北斗）→新函館北斗→（はやぶさ）→東京と、網走から横浜まで15時間かけて1,560km乗り鉄しました。北海道の雄大な景色を眺めつつ、「乗り鉄」しながら地元のお酒を「呑み鉄」してきました。2日間ただ乗って飲んでいただけですが、満足の週末でした。

国鉄からJR各社に分割されて月日がたち、国鉄



磐越西線、喜多方-山都を走る「SLばんえつ物語号」（2010年9月）



釧網本線、美留和-川湯温泉を走る「SL冬の湿原号」（2011年1月）



湖西線、マキノ-近江中庄を走る「トワイライトエクスプレス」  
(2011年2月)

時代の車両がどんどん引退しています。で、ここで原点である「模型鉄」が目覚めました。HOは値段も高く場所も取るので今はNゲージです。昔はプラスチックの雑な玩具の様な様でしたが、最近のNゲージはよくできていますし、そもそも老眼でチマチマした作業がきつくなり、HOの模型作りはあきらめました。Nゲージは値段も手ごろで、編成として集められていいのですが、人気車両はすぐに売り切れてしまうので、ネットで発売情報を見つけたら早めに動きださないとすぐに完売してしまいます。基本的に昭和の東海道本線、あるいは鉄研旅行で出かけた地で活躍していた車両がお気に入りですが、現在活躍している車両もいつかは過去になってしまうわけで、身近な車両も実は買っていたりします。自宅のロフトに線路を広げるスペースがあるのですが、そこでは広げずに、いくつかの車両を出してきて眺めながらリビングで一杯やる、という「眺め鉄」（こんなジャンルがあるかは知りませんが）が最近のお楽しみです。クリニックに飾ったり、走らせたりする構想もあったのですが、子どもたちにいじられるのが怖くなって断念しました（笑）。

鉄道が趣味というと、オタクの世界として冷やや



昭和50年頃の東海道本線の模型（高校時代見ていた車両たち）



最近の車輛の模型（横浜駅7、8、9、10番線あたり）

かな目で見られる時代が長かったですが、最近はTV番組でも取り上げられるようになり、メジャーになったものだと感じます。皮膚科医の中では、上出良一先生の模型の趣味は以前から知っていましたが、飯島正文先生とは鉄道が縁で声をかけていただけるようになりました。安部正敏先生とは、彼の足元には到底及びませんが、マニアックな鉄道話ができるので講演会で会うのが楽しみです。趣味をたくさん持つのはいいことだと聞きますが、自分の場合は休日が風ならば釣り、風が強ければドライブ&撮り鉄、天気が悪かったら模型を広げると、状況に応じて使い分けています。今年の目標はまだ撮っていないSL銀河とSL大樹の撮影でしょうか。